

第6次豊明市総合計画策定に係る基本的な考え方

1. 次期総合計画の策定方針のポイント

『～めざすまちの姿実現に向けた、より成果志向型の総合計画へ～』

(1)めざすまちの姿、まちづくり指標のブラッシュアップ

・現行計画の考え方を踏襲し、めざすまちの姿の実現の推進を図るために必要な見直しを行う。

(2)計画期間

・昨今の目まぐるしい社会情勢等の変化や市長の政策方針との連動による政策推進力向上のため、計画期間を市長任期に合わせて設定する。

・市長選の時期と計画策定スケジュールを考慮し、終期は令和13年度とする。(計画期間6年間 現行10年間(平成28～令和7年度) ⇒ 次期(6次)6年間(令和8～令和13年度))

※それ以降(第7次)の計画期間は8年間で固定。

	2021 R3	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025 R7	2026 R8	2027 R9	2028 R10	2029 R11	2030 R12	2031 R13	2032 R14	2033 R15	2034 R16
市長選			☆				☆				☆			
5次														
6次			策定作業					6年間						
7次										策定作業				

(3)総合計画マネジメントを軸としたマネジメント(PDCA)サイクルの実施

・効率的な進捗管理を行うため、めざすまちの姿、まちづくり指標と連動した事業体系及び評価制度を設計する。

2. 基本的な視点

(1)現状と課題

豊明市は、名鉄名古屋本線や国道1号・23号線、伊勢湾岸自動車道など交通の利便性が高く、戦国の歴史を大きく変えた桶狭間の戦いの地である国史跡「桶狭間古戦場伝説地」や「戦人塚」などの歴史文化や、県指定天然記念物「ナガバノイシモチソウ」の自生地や希少な動植物が生息する「大狭間湿地」など、緑豊かな自然環境に恵まれた住宅都市です。このような魅力あふれる豊明市を私たちは、次世代へと受け継いでいかななくてはなりません。

豊明市の特徴を活かしながら、今までに前例のない人口減少社会、少子化・超高齢社会など厳しい社会環境の時代に対応し、より多様化かつ複雑化している社会、住民生活の課題の解決につながるための重層的支援の実施等による「誰ひとり取り残さない」地域共生社会の実現、公共施設マネジメント、DXの推進等の行政課題の解決を図ることで、いつまでも持続可能なまちづくりへの転換が重要となります。

(2) 今後の方向性

長期的かつ戦略的な視点に立って、本市がめざすまちの姿と、その実現に向けた基本的な取組を明確に示した羅針盤としての総合計画を策定し、計画実行のプロセスにおいては市民含め多様な主体者の意識改革を促し、誰もが自らまちづくりの主体者となる必要があります。

めざすまちの姿がどの程度達成できているのか、どの施策がめざすまちの姿に効果があったのかどうかを客観的に把握しながら、めざすまちの姿達成に向けて総合計画マネジメントによるPDCA サイクルを回します。限られた資源を有効活用し効率的かつ効果的な行政運営を実現し、市民幸福度の最大化を図ります。

3. 策定スケジュール

以下の案を参考に、策定のスケジュールを提案すること。なお、議会上程は、2025(令和 7)年12月定例会月議会とする。

スケジュール(案)	R5 年度	R6 年度	R7 年度
基本構想	<ul style="list-style-type: none"> ・現況調査 ・将来フレーム(人口・土地利用)の調査・分析 ・各種グループインタビュー ・市民意識調査 ・研修会等の実施 ・総合計画審議会 ・経営戦略会議 ・職員 WS 		<ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメント ・行政評価の検討 ・実施計画の検討
基本計画			
第5次総合計画	検証		

4. 策定体制イメージ

